

求職者の動向と意識の変化

＜求職者の動向・意識調査 2013-2017より＞

株式会社リクルートジョブズの調査研究機関「ジョブズリサーチセンター」では、求職者の動向や意識を調査するために隔年で「求職者の動向・意識調査」を実施しています。本レポートでは、最新の2017年調査結果と、2013年調査結果の比較を行いました。主な結果は以下の通りです。

- <新たな仕事の決定状況> 無職計では「継続中」が減少し、「仕事が決まったので終了した」の割合が増えている。多くの職場で人材不足により働き手が求められているなかで、これまで仕事をしていたが働き始める人が増えた可能性がある。(p.5)
- <仕事探しにかけた期間> 正社員とアルバイト・パートでは「1週間未満」の割合が増加しており、短期間で新しい仕事を決める人が増えていると考えられる。(p.6)
- <探した仕事の勤務日数(週あたり)> 「1～3日」の仕事を探している人が増加しており、特に無職計では50.6%と約半数にのぼっている。多様な働き方の普及が推進されるなか、少ない勤務日数を希望する人が増えていると考えられる。(p.8)
- <探した仕事の時給> アルバイト・パートでは2013年調査では「800～850円未満」が最も多かったが、2017年調査ではより高い時給を希望する人が増え、「950～1000円未満」の割合が最も大きくなっている。景況感、人材不足による時給の上昇、最低賃金の引き上げなどを受けて、希望する時給が上がっていると推測される。(p.10)

調査概要

	求職者の動向・意識調査 2017	求職者の動向・意識調査 2013
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働市場における求職者の就業実態および意識を明らかにする ・ 付加的に未就業者（専業主婦/主夫など）の求職実態および意識を明らかにする 	
調査手法	インターネット調査（インテージ社モニター利用）	
対象者条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国 15～69歳の男女 ・ 最近1年間に仕事探し経験あり（新卒以外） ・ 現在および仕事探し当時の職業がアルバイト・パート、正社員、契約社員、派遣社員、専業主婦/主夫、無職・定年退職 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国 15～69歳の男女 ・ 最近1年間に仕事探し経験あり（新卒以外） ・ 現在の職業がアルバイト・パート、正社員、契約社員、派遣社員、専業主婦/主夫、無職・定年退職、学生
調査期間	2017年9月11日（月）～9月15日（金）	2013年2月1日（金）～2月12日（火）
有効回答数	19,287人（ウエイトバック集計） 本レポート対象者については次ページ参照	18,450人（ウエイトバック集計） 本レポート対象者については次ページ参照

参考ページ

- 求職者の動向・意識調査 2017 基本報告書
http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20171030_723.html
- 求職者の動向・意識調査 2015 基本報告書
http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20151221_317.html
- 求職者の動向・意識調査 2013 求職者データレポート・全国版
http://jbrc.recruitjobs.co.jp/data/data20130401_41.html

目次

1. 仕事探しをした最大の理由	3
2. 利用した求人情報源（複数回答）	4
3. 新たな仕事の決定状況	5
4. 仕事探しにかけた期間	6
5. 仕事を探した時の重視点	7
6. 探した仕事の勤務日数（週あたり）	参考）実際の勤務日数（週あたり） 8
7. 探した仕事の勤務時間（1日あたり）	参考）実際の勤務時間（1日あたり） 9
8. 探した仕事の時給	参考）実際の時給 10, 11

回答者プロフィール

本レポートでは、主に正社員、アルバイト・パート、無職計（無職・定年退職、専業主婦/主夫）を対象として取り上げた。時給についてはアルバイト・パート、派遣社員を対象としている（p10-11）。なお、2013年調査については「現在の職業」、2017年調査については「仕事探し当時の職業」を用いている。回答者数は特に記載がなければ下表の通り。

回答者の性別を見ると、各就業形態の男女比は2013年調査と2017年調査で大きな違いはない。ただし、正社員、派遣社員では女性の比率が2017年調査で若干高くなっている。年齢については、無職計で「60～69歳」の、派遣社員で「50～59歳」の割合が5ポイント以上増えるなど、年齢の高い回答者がやや増えている。

<職業>

	正社員	アルバイト・パート	無職計	派遣社員 (人)
2013	2,962	3,533	3,948	676
2017	5,575	5,754	5,659	1,185

<性別>

			男性	女性 (%)
正社員	n=			
	2013	2,962	67.4	32.6
正社員	n=			
	2017	5,575	62.8	37.2
アルバイト・パート	n=			
	2013	3,533	25.8	74.2
アルバイト・パート	n=			
	2017	5,754	22.6	77.4
無職計	n=			
	2013	3,948	24.8	75.2
無職計	n=			
	2017	5,659	26.8	73.2
派遣社員	n=			
	2013	676	37.1	62.9
派遣社員	n=			
	2017	1,185	30.0	70.0

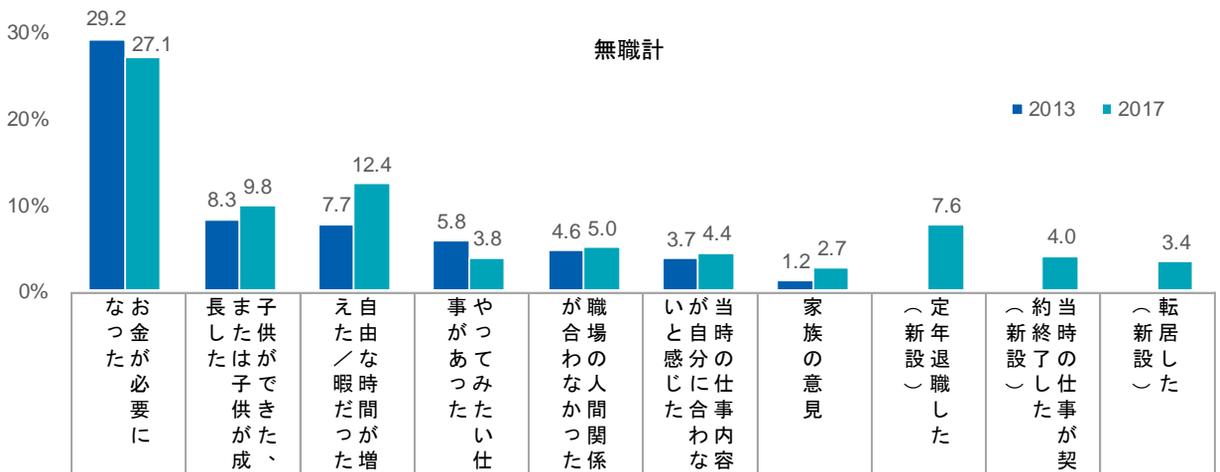
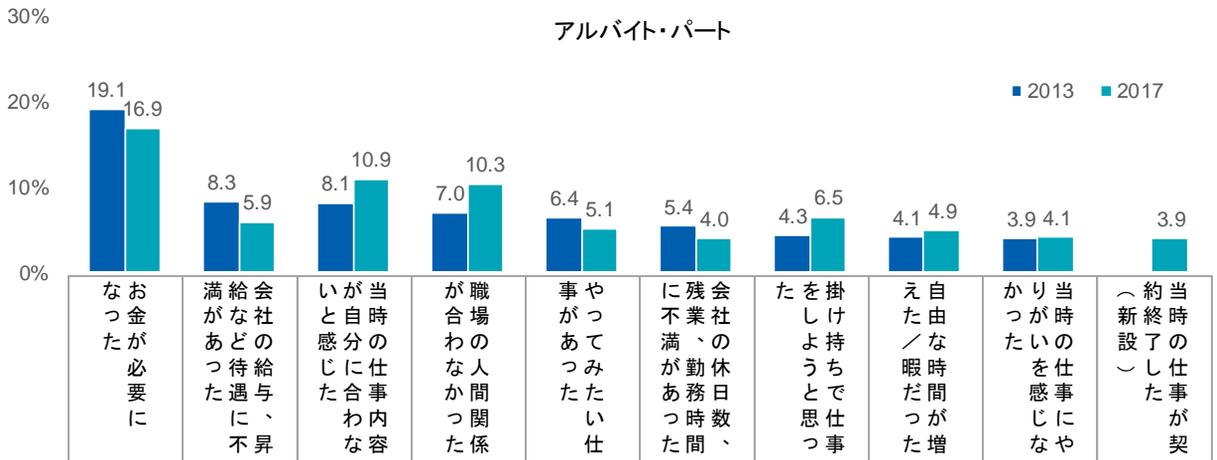
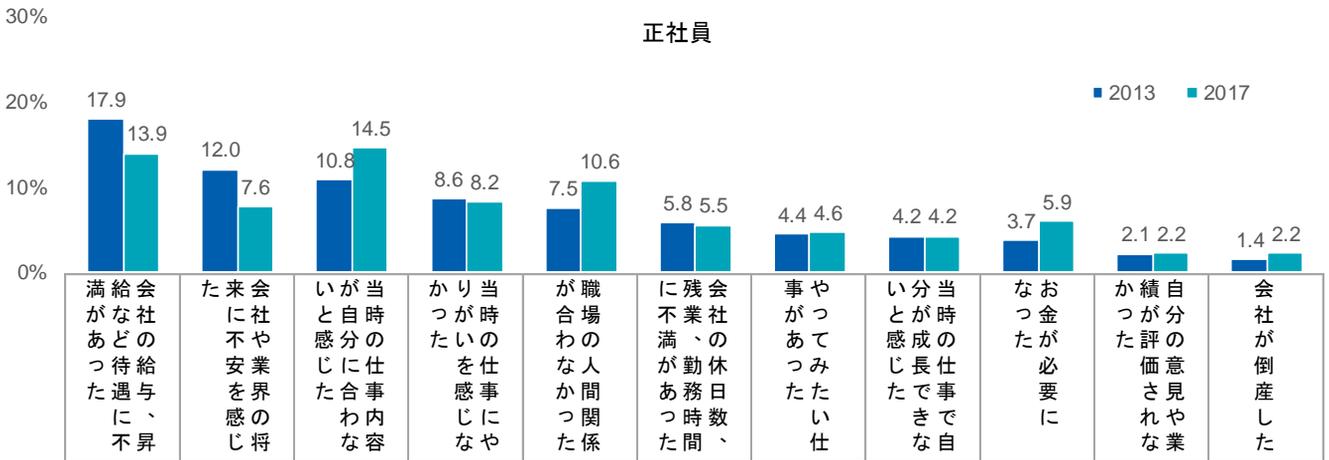
<年齢>

			15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳 (%)
正社員	n=							
	2013	2,962	0.1	26.4	38.5	26.4	7.9	0.6
正社員	n=							
	2017	5,575	0.1	26.5	33.8	24.3	13.0	2.2
アルバイト・パート	n=							
	2013	3,533	0.6	27.8	23.2	26.4	14.2	7.8
アルバイト・パート	n=							
	2017	5,754	0.9	21.7	21.8	29.0	16.0	10.6
無職計	n=							
	2013	3,948	0.3	20.0	27.5	23.7	14.0	14.5
無職計	n=							
	2017	5,659	0.3	15.4	23.7	22.7	16.2	21.7
派遣社員	n=							
	2013	676	0.0	17.1	39.0	30.0	11.8	2.1
派遣社員	n=							
	2017	1,185	0.2	14.4	32.4	30.9	17.5	4.7

1. 仕事探しをした最大の理由 ※2017年調査の上位10項目を抜粋

正社員とアルバイト・パートについて見ると、数値としての差は大きくないものもあるが、「会社の給与、昇給など待遇に不満があった」「会社や業界の将来に不安を感じた」が減少し、「当時の仕事内容が自分に合わないと感じた」「職場の人間関係が合わなかった」が増加傾向にある。給与や会社の業績が改善し、よりソフトな面が重視されてきている可能性があるだろう。

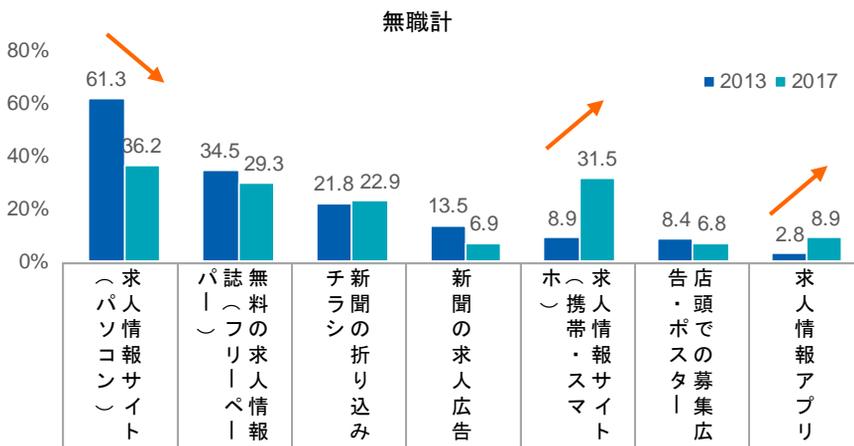
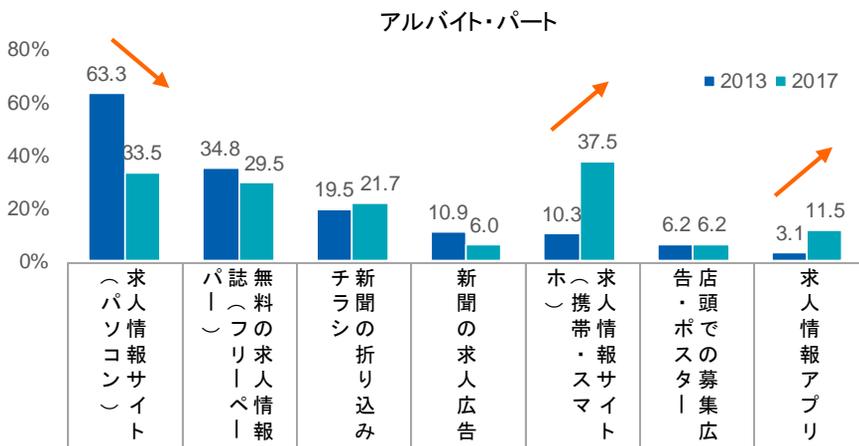
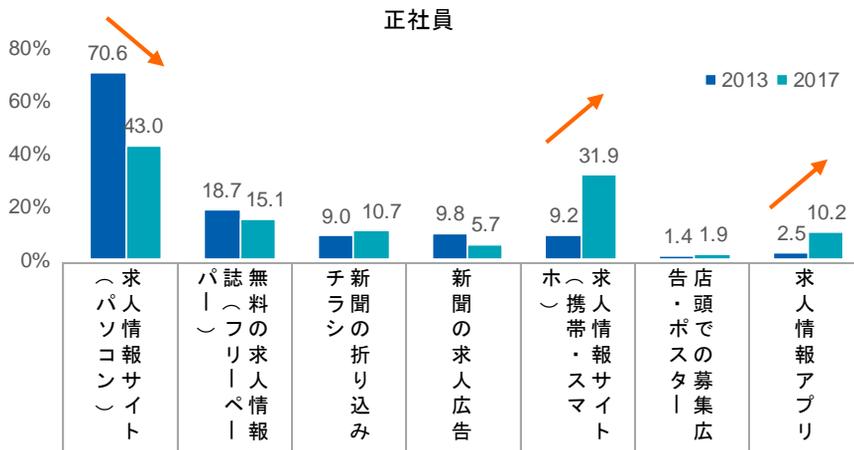
※2013年調査と2017年調査で選択肢が異なるため、比較には注意が必要。特に無職計では新設の選択肢が上位に挙がっている。



2. 利用した求人情報源（複数回答） ※求人情報メディアのみ抜粋

いずれの就業形態でも、「求人情報サイト（パソコン）」が減少し、「求人情報サイト（携帯・スマホ）」「求人情報アプリ」が増加している。詳細データは割愛するが、男性より女性で、また年齢がより若い層で、パソコンよりも携帯・スマホやアプリが多く利用されるようになっている。

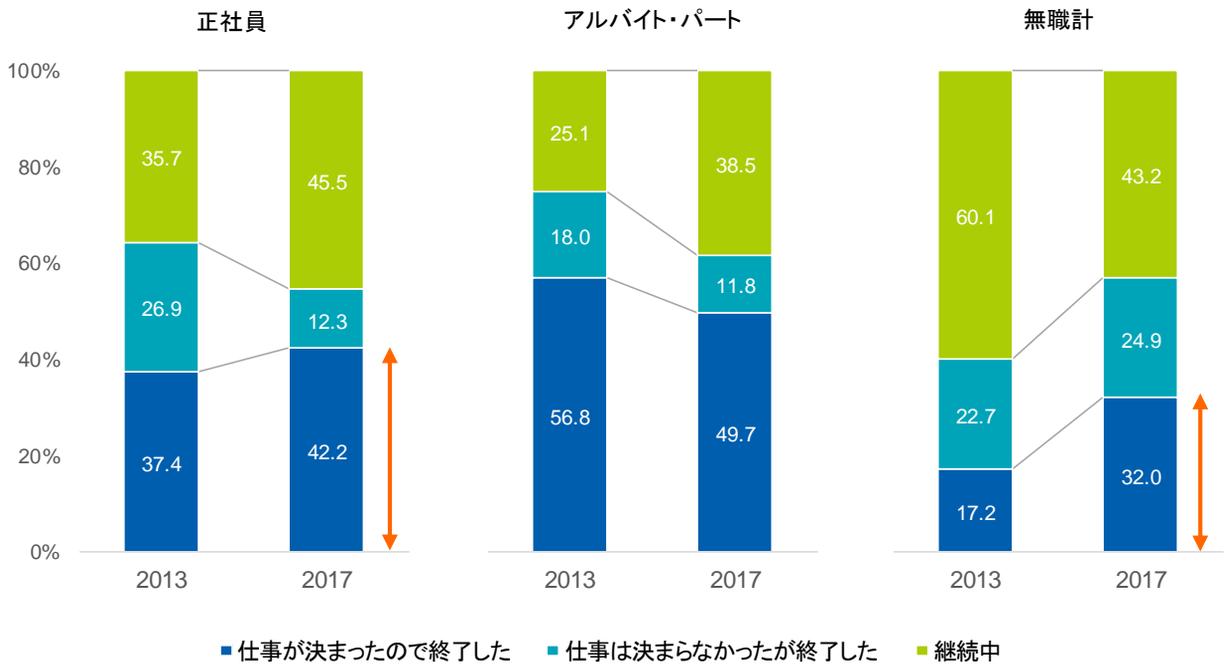
また、「新聞の折り込みチラシ」は微増しており、特に年齢が高い層で利用され続けている。



3. 新たな仕事の決定状況

無職計では「継続中」が減少し、「仕事が決まったので終了した」の割合が増えている。多くの職場で人材不足により働き手が求められているなかで、これまで仕事をしていなかったが働き始める人が増えた可能性がある。ただし、「仕事は決まらなかったが終了した」も約4分の1を占めており、仕事探しをしたものの諦める人も多いと考えられる。

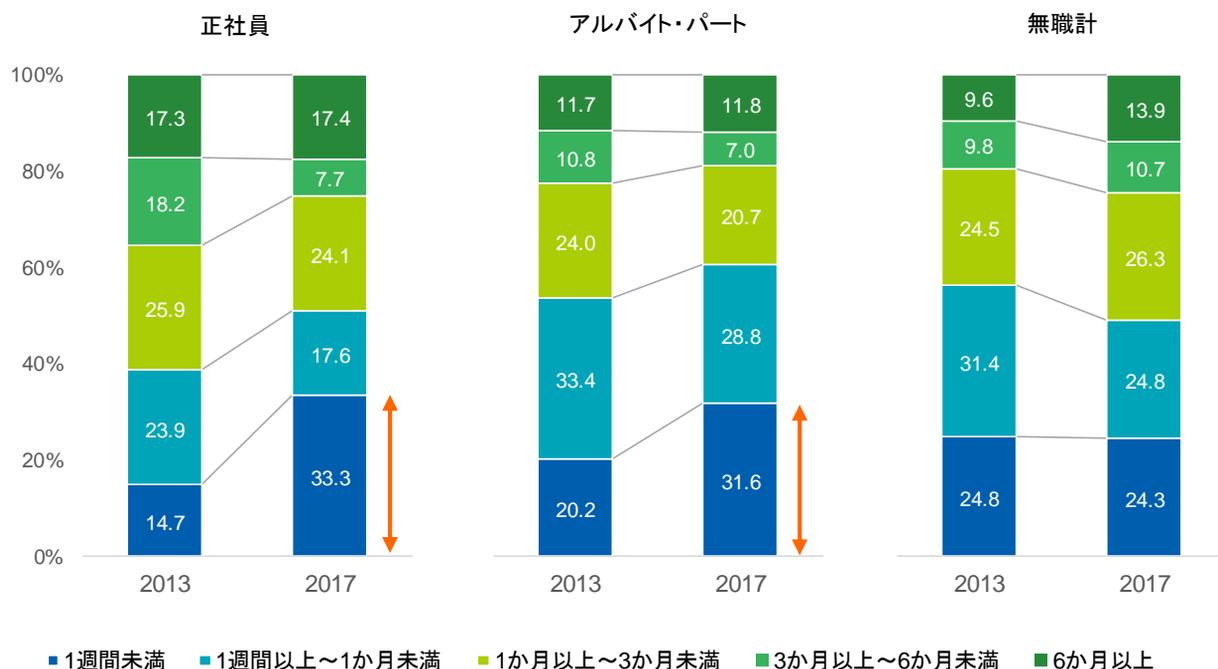
正社員でも、「仕事が決まったので終了した」の割合が増加している。アルバイト・パートでは「仕事が決まったので終了した」の割合は減っているが、「仕事は決まらなかったが終了した」の割合も減少した。



4. 仕事探しにかけた期間

新しい仕事が決まった人が仕事探しにかけた期間を見ると、正社員とアルバイト・パートでは「1週間未満」の割合が増加しており、短期間で新しい仕事を決める人が増えていると考えられる。

一方、無職計では「6か月以上」の割合がやや増加しており、「1週間以上～1か月未満」の割合が減少している。



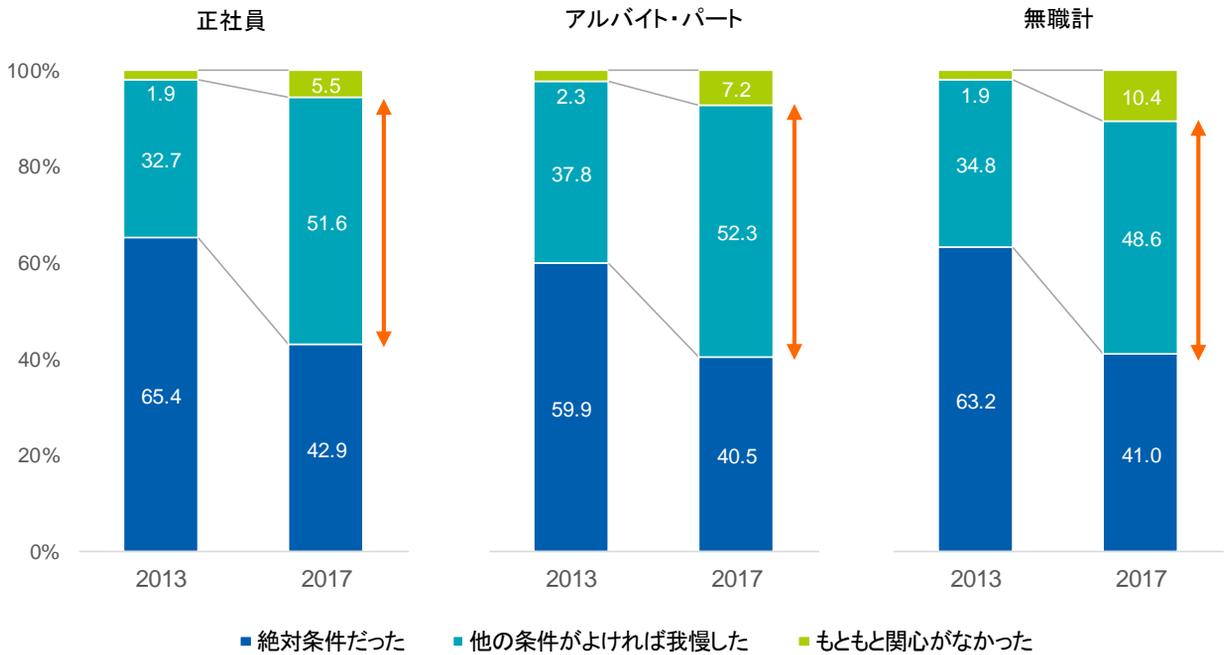
対象者：新たな仕事が決まった人
回答者数：

	正社員	アルバイト・パート	無職計
2013	1,107	2,007	678
2017	2,355	2,860	1,809

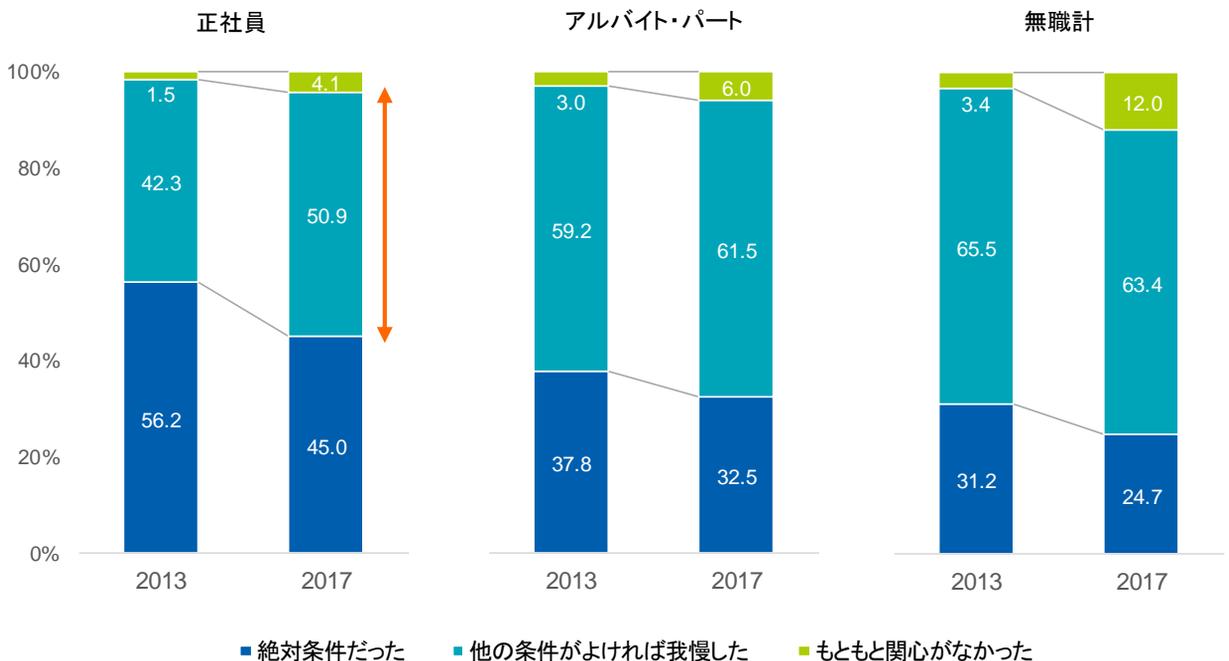
5. 仕事を探した時の重視点

さまざまな項目が仕事を探すときに「絶対条件だった」「他の条件がよければ我慢した」「もともと関心がなかった」かを聞いた質問では、複数の項目で「絶対条件だった」の割合が減少し、「他の条件がよければ我慢した」が増加した。人材不足のなかで求人条件がよくなったため、複数の条件を見て総合的に仕事を選ぶ傾向が強まっている可能性がある。

<仕事内容（職種）>



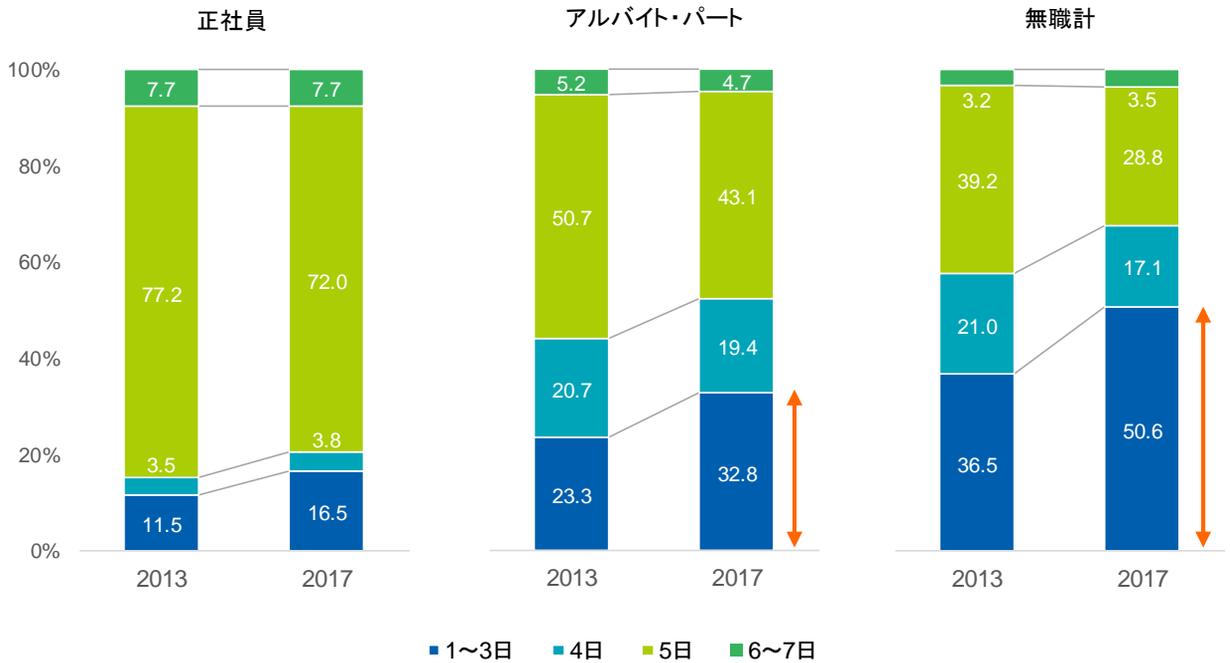
<給与>



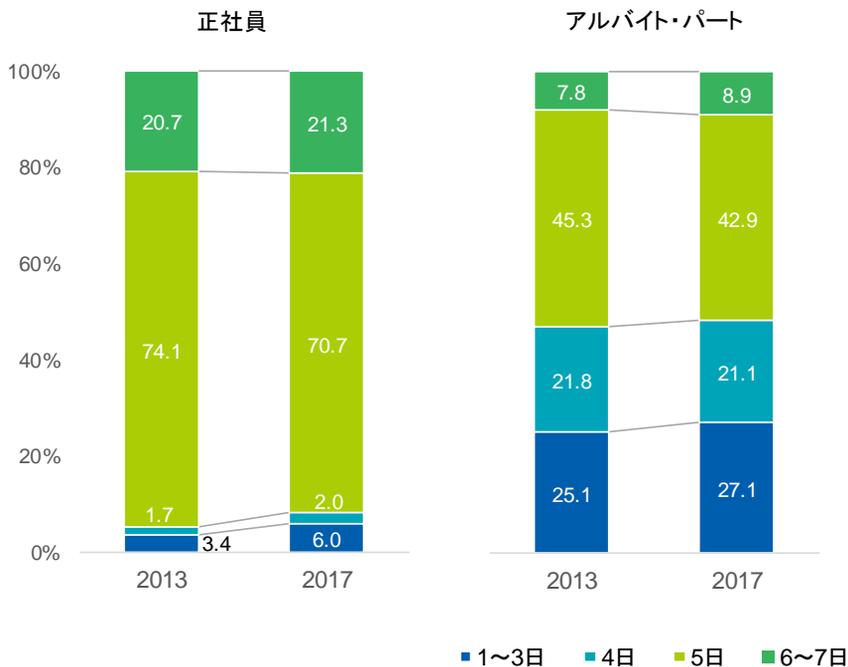
6. 探した仕事の勤務日数（週あたり）

週あたりの勤務日数が「1～3日」の仕事を探している人が増加しており、特に無職計では50.6%と約半数にのぼっている。多様な働き方の普及が推進されるなか、少ない勤務日数を希望する人が増えていると考えられる。

なお、参考として実際の勤務日数を見ると、「1～3日」が若干増えてはいるが、変化はあまりない。



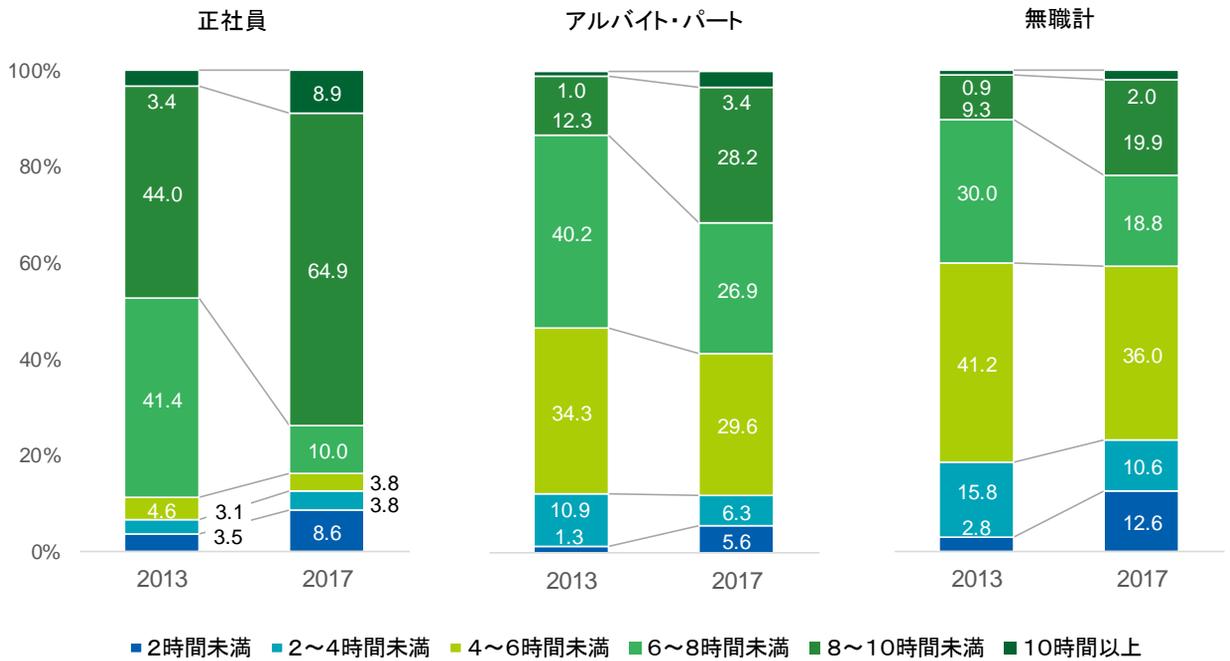
参考）実際の勤務日数（週あたり）



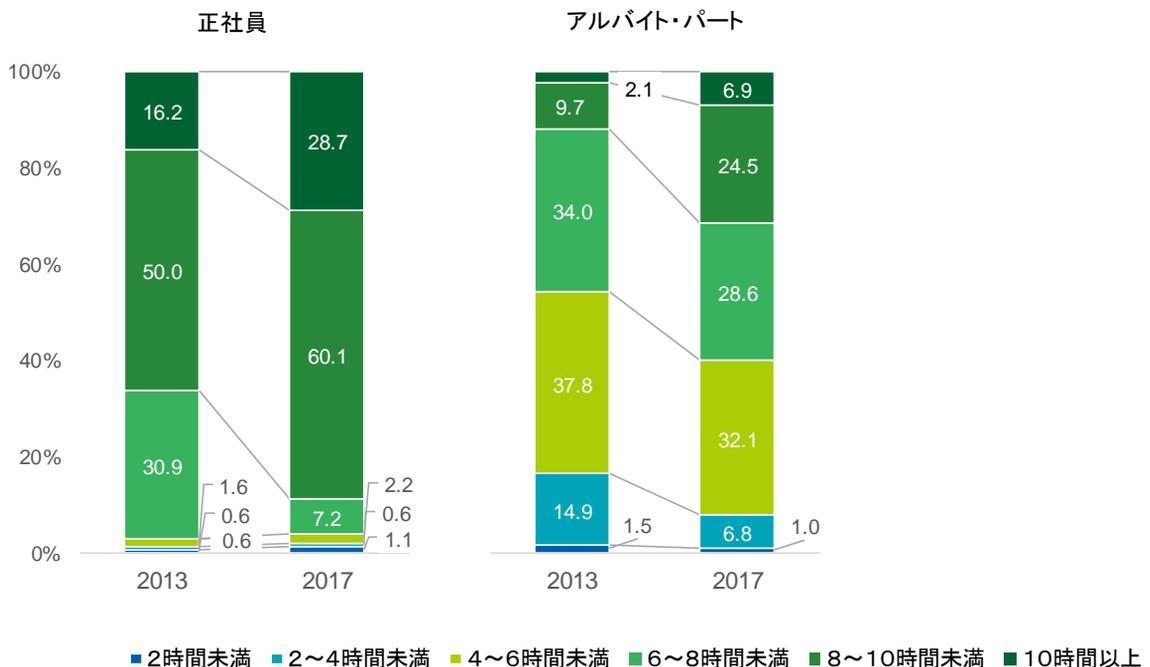
7. 探した仕事の勤務時間（1日あたり）

いずれの就業形態でも「2時間未満」の仕事を探した人が増加している一方、8時間以上の仕事を探したという人も増加している。また、参考として実際の勤務時間を見ると、正社員で8時間以上、アルバイト・パートで6時間以上の割合が増えている。

※ただし、2013年調査は単一回答、2017年調査は数値回答と回答方法が違うため、比較には注意が必要。

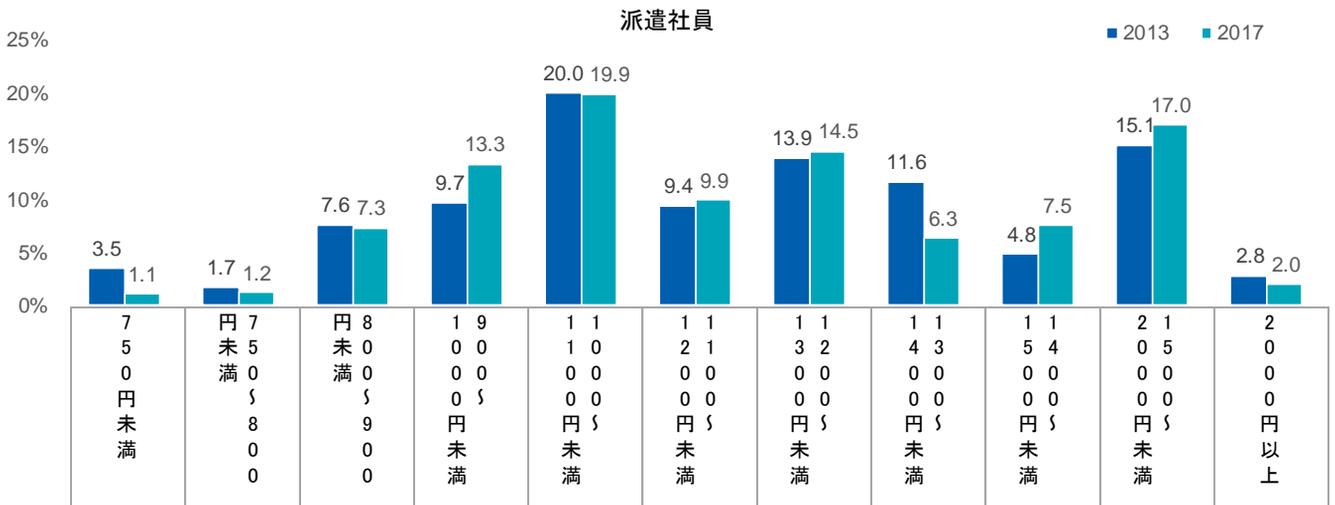
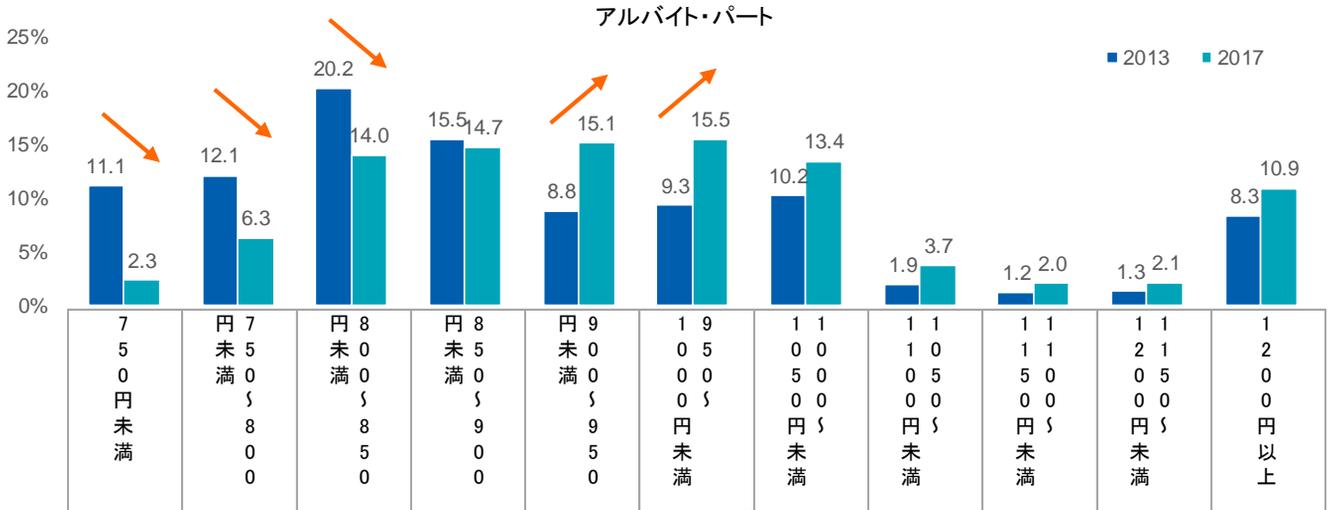


参考）実際の勤務時間（1日あたり）



8. 探した仕事の時給

仕事を探した際の希望最低時給を見ると、アルバイト・パートでは2013年調査では「800～850円未満」が最も多かったが、2017年調査ではより高い時給を希望する人が増え、「950～1000円未満」の割合が最も大きくなっている。景況感、人材不足による時給の上昇、最低賃金の引き上げなどを受けて、希望する時給が上がっていると推測される。なお、地域別最低賃金（全国加重平均）は、2013年度 764円、2017年度 848円であり、84円増加した。



対象者：最も探していた就業形態がアルバイト・パートか派遣社員
回答者数：

	アルバイト・パート	派遣社員
2013	2,695	377
2017	4,353	627

参考) 実際の時給

参考として実際の時給を見ると、アルバイト・パートでは2013年調査では「800～850円未満」が最も多かったが、2017年調査では「900～950円未満」が最も多くなっている。また、派遣社員でも900円未満の割合は減少し、「1500～2000円未満」などの割合が増えている。

